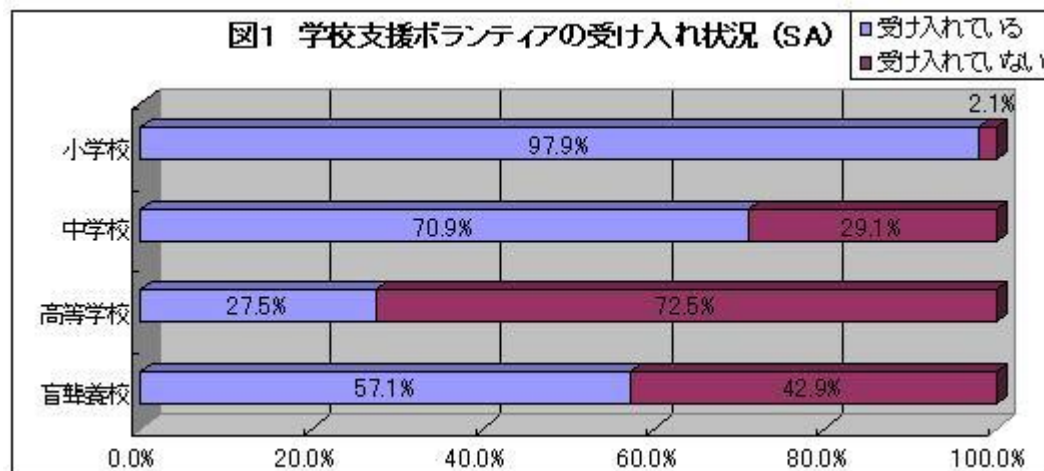


Ⅱ アンケート調査結果

1 学校の調査結果

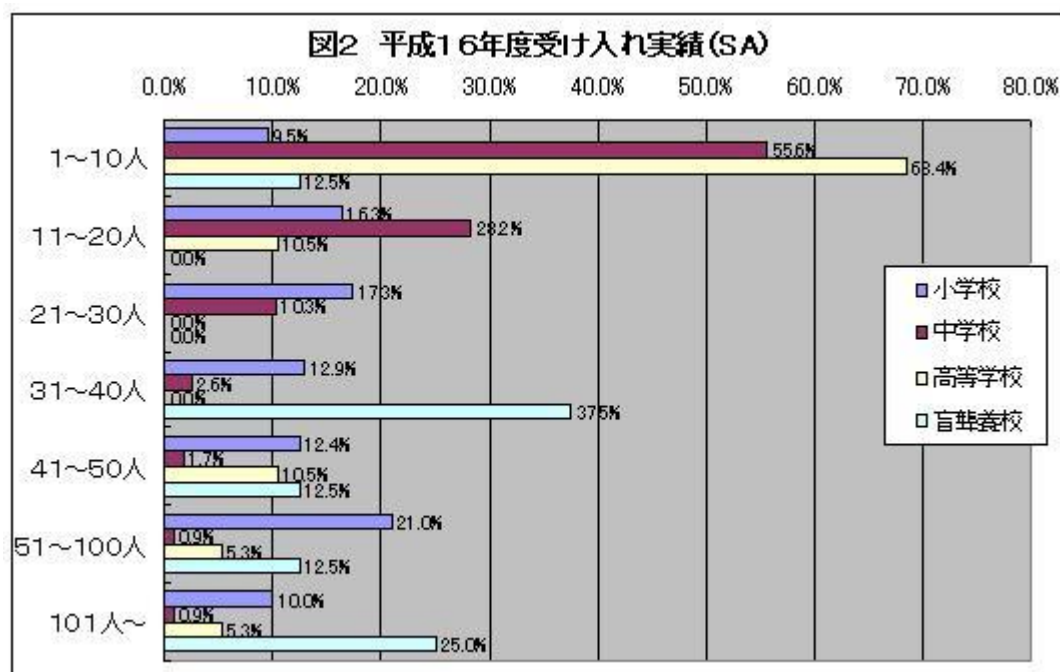
問1 貴校では学校支援ボランティアの受け入れ（または依頼）をしていますか。



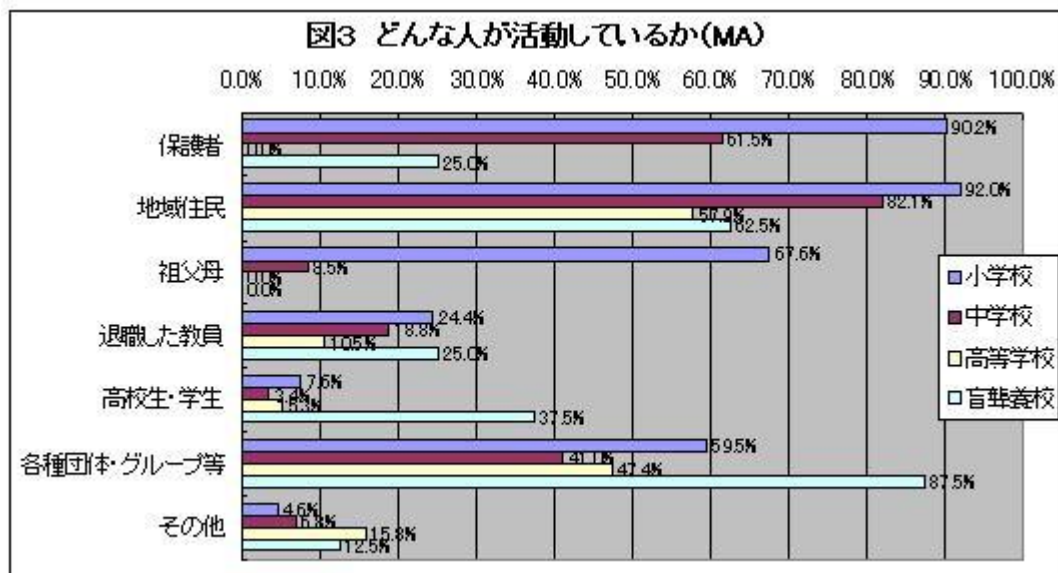
学校支援ボランティアを「受け入れている」と回答しているのは、小学校では97.9%、中学校では70.9%、高等学校では、27.5%、盲聾養護学校では57.1%であり、小学校ではほとんどの学校が何らかの形で受け入れている。

問2 平成16年度の実績でお答えください。

1 1年間におよそ何人の学校支援ボランティアがかかりましたか。延べ人数ではなく、同じ人が何度活動していても一人と数えてください。

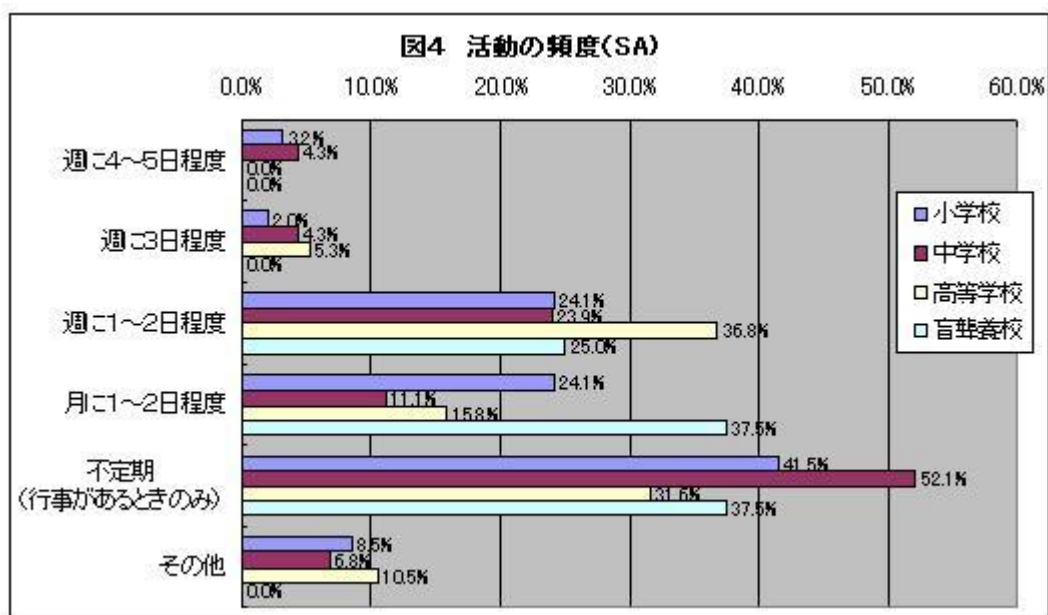


平成16年度の受け入れ実績で最も多いのは、小学校の21.0%が「51～100人」、中学校の55.6%・高等学校の68.4%が「1～10人」、盲聾養護学校の37.5%が「31～40人」となっている。



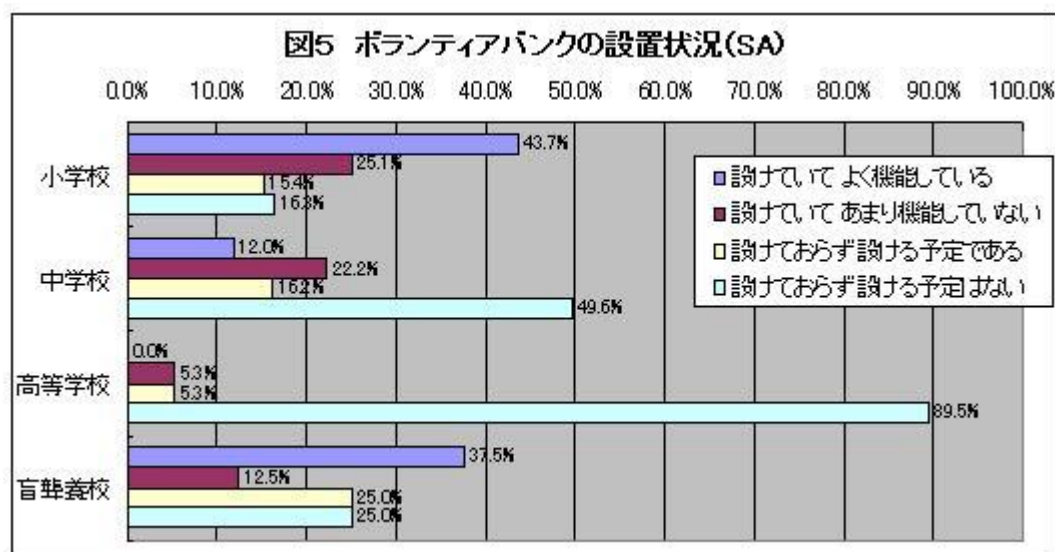
活動している人は、小学校では「地域住民」（９２．０％）、「保護者」（９０．２％）が全体の９割を占めており、中学校も「地域住民」（８２．１％）、「保護者」（６１．５％）の割合が高い。高等学校では「地域住民」（５７．９％）、盲聾養護学校では「各種団体・グループ等」（８７．５％）が高い割合を占めている。

3 おおむねどの程度活動していますか。



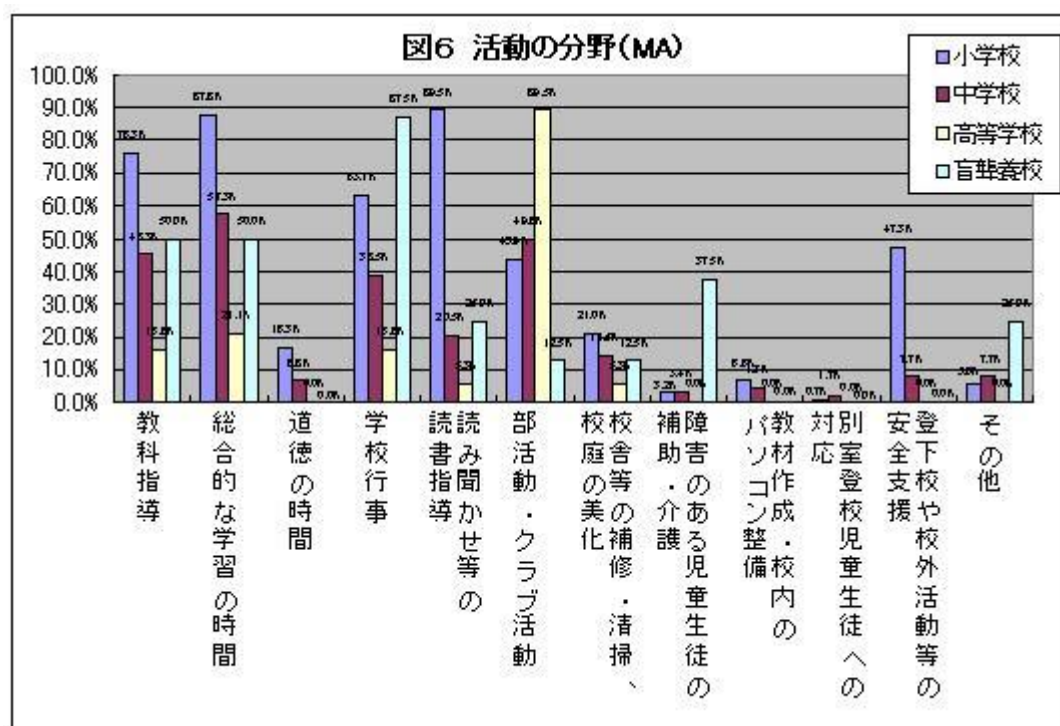
活動の頻度が高いのは、小学校の４１．５％、中学校の５２．１％が「不定期（行事があるときのみ）」、高等学校の３６．８％が「週に１～２日程度」、盲聾養護学校の３７．５％が「月に１～２日程度」「不定期（行事があるときのみ）」となっている。

問3 貴校における学校支援ボランティアに関するボランティアバンク（ボランティアリスト）はどのような状況ですか。



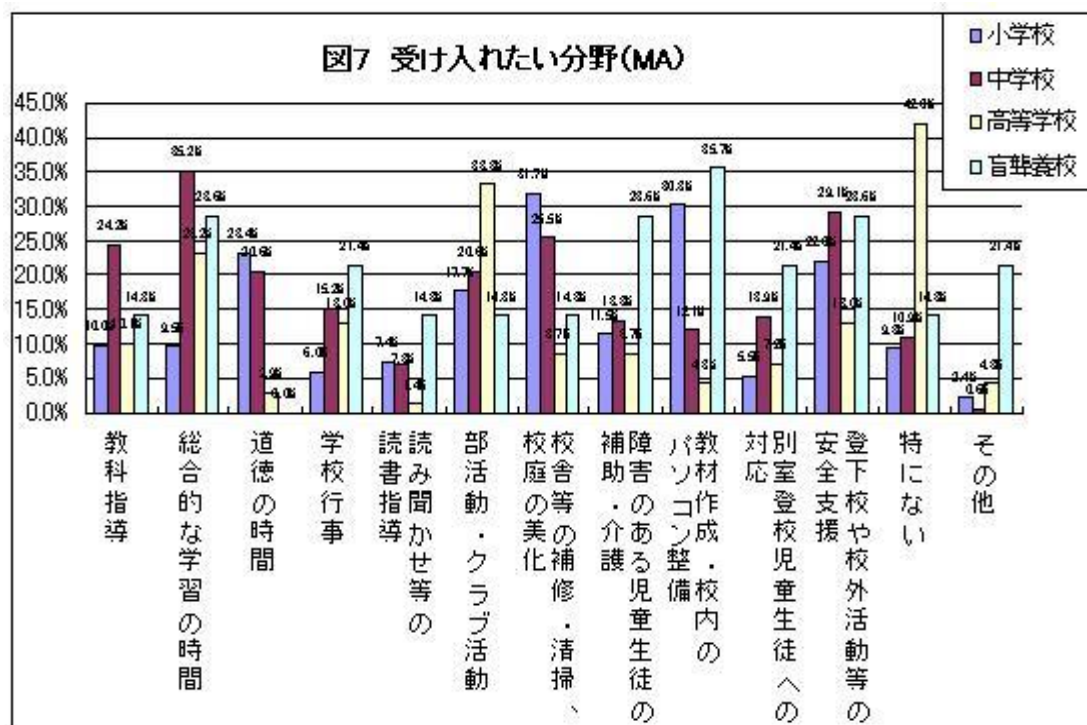
ボランティアバンクの設置状況では、「設けていてよく機能している」は小学校が43.7%、盲聾養護学校は37.5%、「設けておらず設ける予定はない」は中学校が49.6%、高等学校が89.5%と回答しており、校種によって大きな差がみられる。

問4 どのような分野で受け入れていますか。



活動分野では、小学校は「読み聞かせ等の読書指導」（89.5%）、「総合的な学習の時間」（87.8%）、中学校は「総合的な学習の時間」（57.3%）、高等学校は「部活動・クラブ活動」（89.5%）、盲聾養護学校は、「学校行事」（87.5%）が高い割合を占めている。

問5 現在は受け入れていないが、今後、ぜひ受け入れたい分野がありますか。

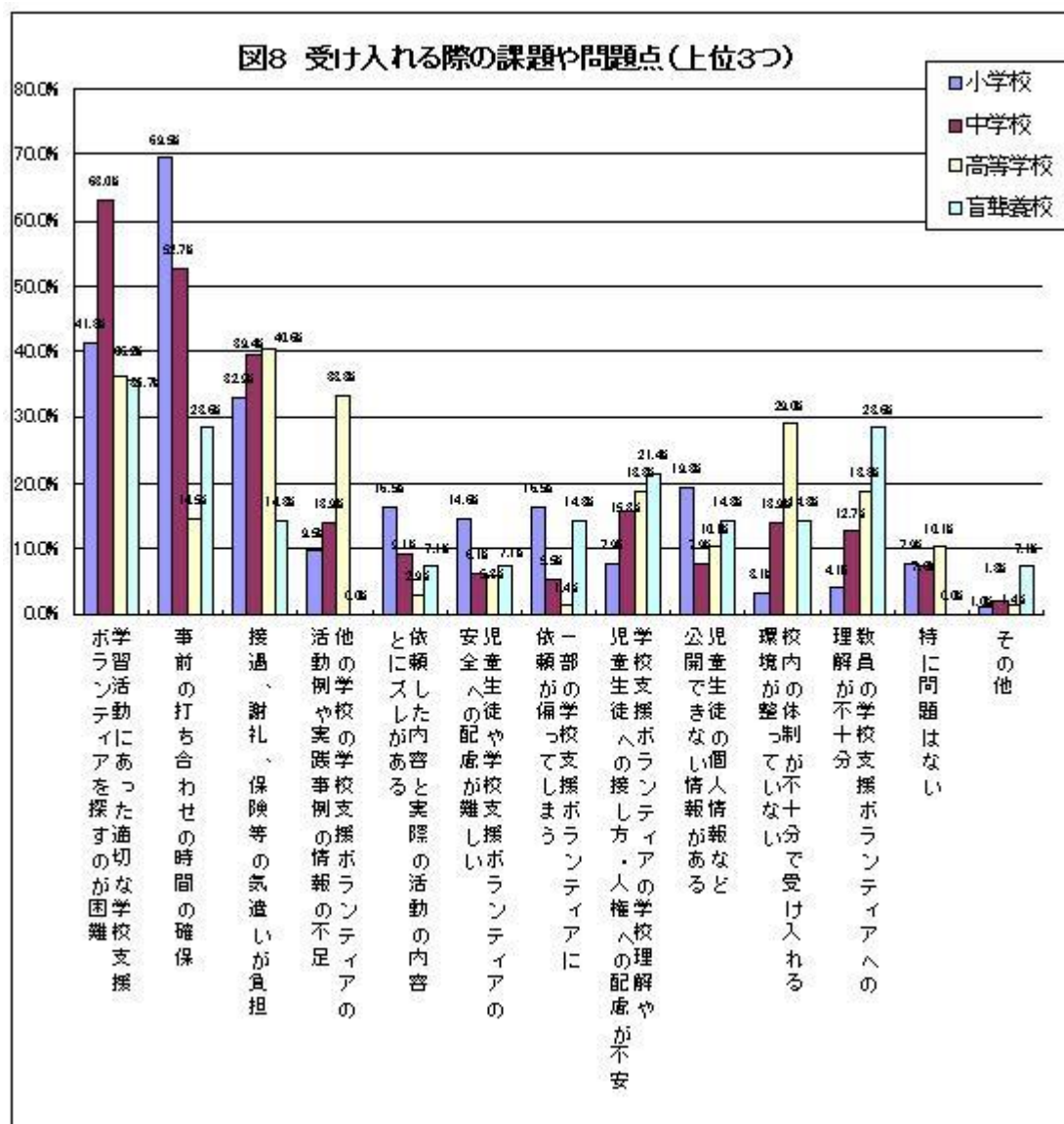


今後、受け入れたい分野では、小学校は「校舎等の補修・清掃、校庭の美化」（31.7%）、「教材作成・校内のパソコン整備」（30.3%）、中学校は「総合的な学習の時間」（35.2%）、「登下校や校外活動等の安全支援」（29.1%）、高等学校は「部活動・クラブ活動」（33.3%）、「総合的な学習の時間」（23.2%）の順に多い。一方で「特にない」（42.0%）と回答している。盲聾養護学校は「教材作成・校内のパソコン整備」（35.7%）、「総合的な学習の時間」「障害のある児童生徒の補助・介護」「登下校や校外活動等の安全支援」（28.6%）が続き、「その他」の内容は、放課後の活動、手話通訳の支援、授業支援などである。

表1 学校支援ボランティア受け入れの有無による受け入れ希望の比較

	小学校		中学校		高等学校		盲聾養校	
	受け入れ有	受け入れ無	受け入れ有	受け入れ無	受け入れ有	受け入れ無	受け入れ有	受け入れ無
教科指導の支援	10.0	11.1	21.4	31.3	10.5	10.0	12.5	16.7
総合的な学習の時間の支援	8.3	66.7	24.8	60.4	10.5	28.0	12.5	50.0
道徳の時間の支援	23.7	11.1	21.4	18.8	0	4.0	0	0
学校行事の支援	5.9	11.1	13.7	18.8	0	18.0	0	50.0
読み聞かせ等の読書指導の支援	6.6	44.4	5.1	12.5	0	2.0	12.5	16.7
部活動・クラブ活動の支援	17.6	22.2	14.5	35.4	26.3	36.0	25.0	0
校舎等の補修・清掃、校庭の美化等の支援	31.5	44.4	27.4	20.8	0	12.0	12.5	16.7
障害のある児童生徒の補助・介護等の支援	11.2	22.2	15.4	8.3	10.5	8.0	12.5	50.0
教材作成・校内のパソコン整備等の支援	29.8	55.6	13.7	8.3	5.3	4.0	37.5	33.3
別室登校児童生徒への対応	5.4	11.1	14.5	12.5	5.3	8.0	12.5	33.3
登下校や校外活動等の安全支援	21.5	44.4	26.5	35.4	5.3	16.0	37.5	16.7
特にない	9.3	11.1	7.7	18.8	47.4	40.0	25.0	0
その他	2.2	11.1	0	2.1	0	6.0	25.0	16.7

問6 受け入れる際の課題や問題点は何ですか。

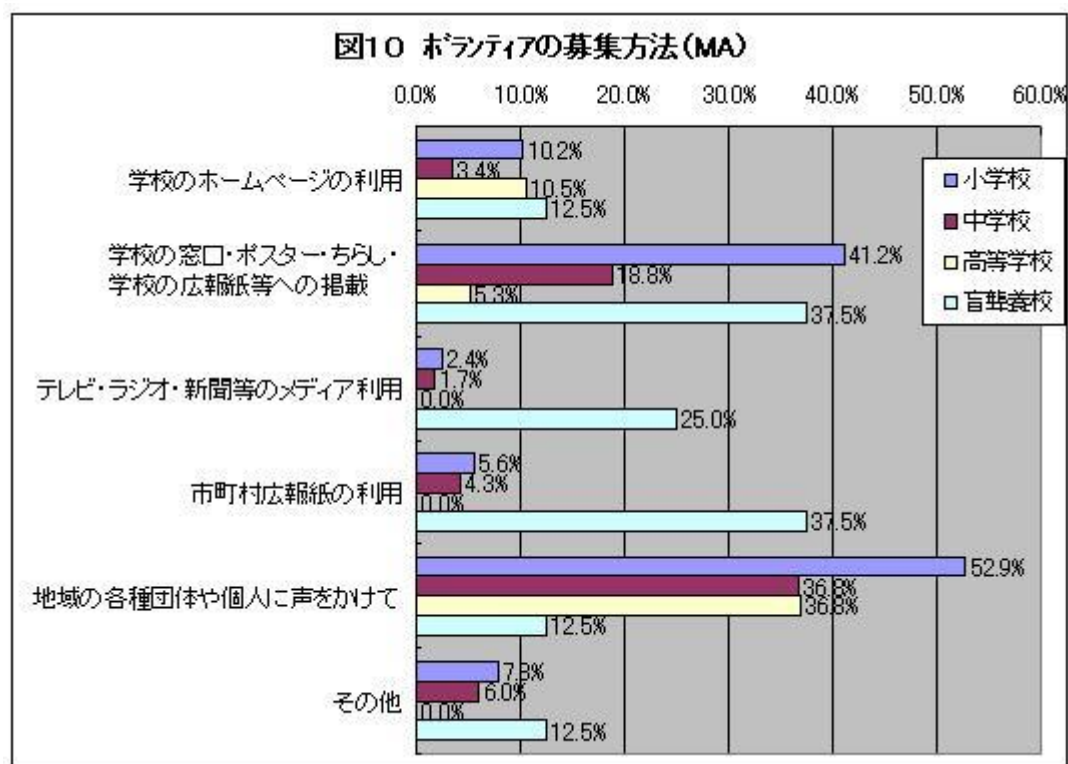
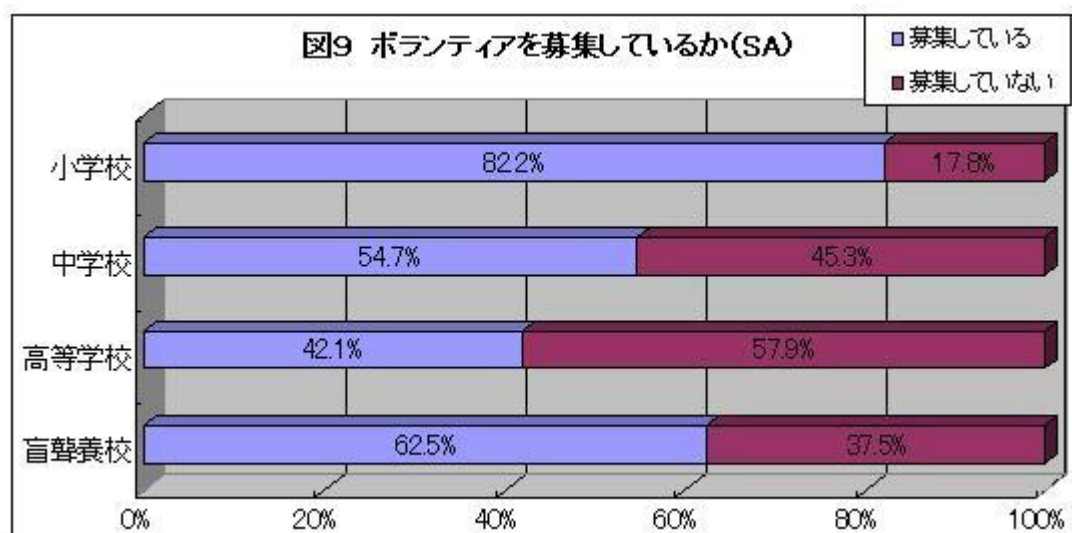


受け入れる際の課題や問題点では、小学校は「事前の打ち合わせの時間の確保」（69.5%）、中学校は「学習活動にあった適切な学校支援ボランティアを探すのが困難」（63.0%）、高等学校は「接遇、謝礼、保険等の気遣いが負担」（40.6%）、盲聾養護学校は「学習活動にあった適切な学校支援ボランティアを探すのが困難」（35.7%）が最も多い。

表2 学校支援ボランティア受け入れの有無による比較

	小学校		中学校		高等学校		盲聾養護校	
	受け入れ 有	無	受け入れ 有	無	受け入れ 有	無	受け入れ 有	無
学習活動にあった適切な学校支援ボランティアを探すのが困難	41.7	22.2	65.0	58.3	42.1	34.0	37.5	33.3
事前の打ち合わせの時間を確保するのが難しい	70.2	33.3	66.4	43.8	10.5	16.0	60.0	0
接遇、謝礼、保険等の気遣いが負担	32.4	55.6	38.5	41.7	68.4	30.0	12.5	16.7
他の学校支援ボランティアの活動例や実践事例の情報不足	9.5	11.1	11.1	20.8	21.1	38.0	0	0
依頼した内容と実際の活動の内容とにズレがある	16.3	22.2	8.5	10.4	0	4.0	12.5	0
児童生徒や学校支援ボランティアの安全への配慮が難しい	14.6	11.1	5.1	8.3	5.3	6.0	12.5	0
一部の学校支援ボランティアに依頼が偏ってしまう	16.6	11.1	7.7	0	5.3	0	12.5	16.7
学校支援ボランティアの学校理解や児童生徒への接し方・人権への配慮が不安	7.6	22.2	12.0	26.0	10.5	22.0	25.0	16.7
児童生徒の個人情報など公開できない情報がある	19.5	11.1	7.7	8.3	0	14.0	12.5	16.7
校内の体制が不十分で受け入れる環境が整っていない	3.2	0	14.5	12.5	15.8	34.0	25.0	0
教員の学校支援ボランティアへの理解が不十分である	4.1	0	13.7	10.4	10.5	22.0	37.5	16.7
特に問題はない	7.6	22.2	6.0	10.4	10.5	10.0	0	0
その他	1.0	0	1.7	2.1	0	2.0	12.5	0

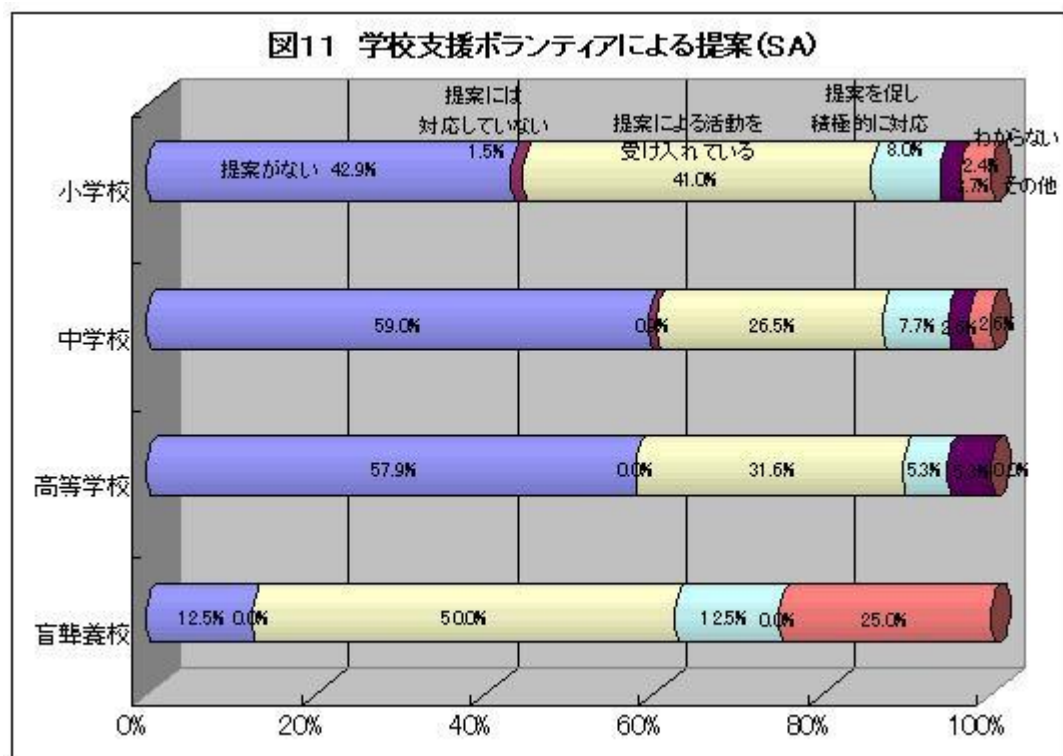
問7 学校支援ボランティアをどのような方法で募集していますか。



小学校の82.2%が学校でボランティアを募集しており、募集方法としては「地域の各種団体や個人に声をかけて」(52.9%)、「学校の窓口・ポスター・ちらし・学校の広報紙等への掲載」(41.2%)の順に多い。中学校は54.7%、高等学校は42.1%が募集しており、募集方法としては、どちらも「地域の各種団体や個人に声をかけて」(36.8%)が最も多い。盲聾養護学校は62.5%が募集しており、募集方法としては「学校の窓口・ポスター・ちらし・学校の広報紙等への掲載」「市町村広報紙の利用」がそれぞれ37.5%で最も多い。

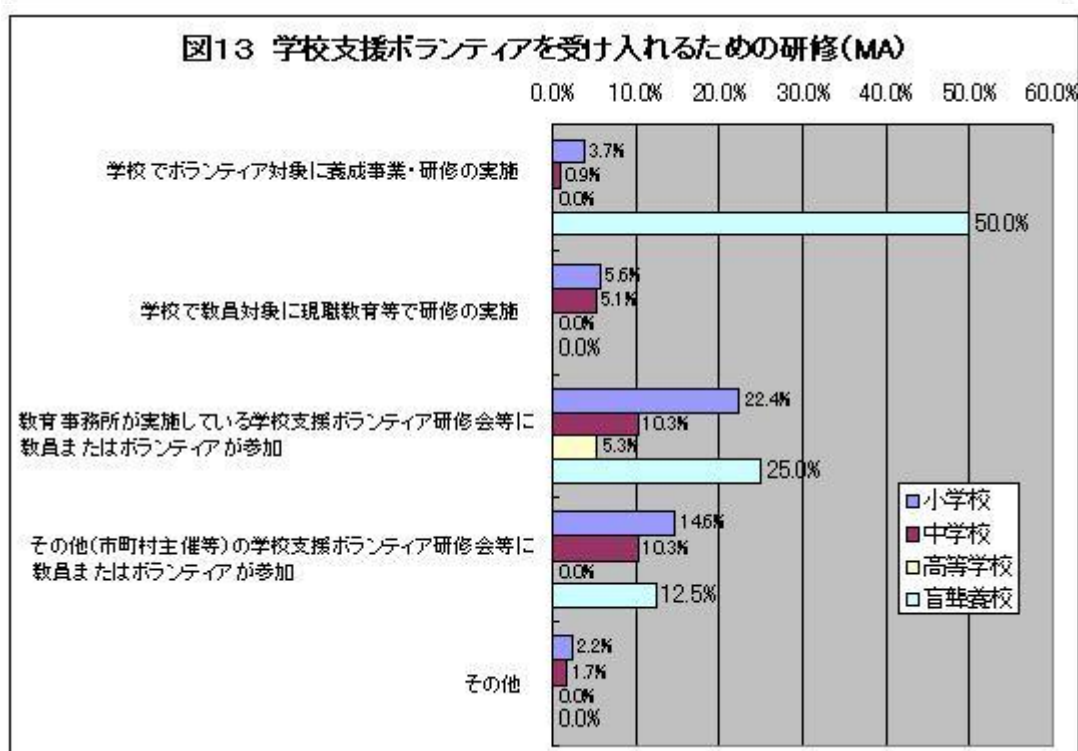
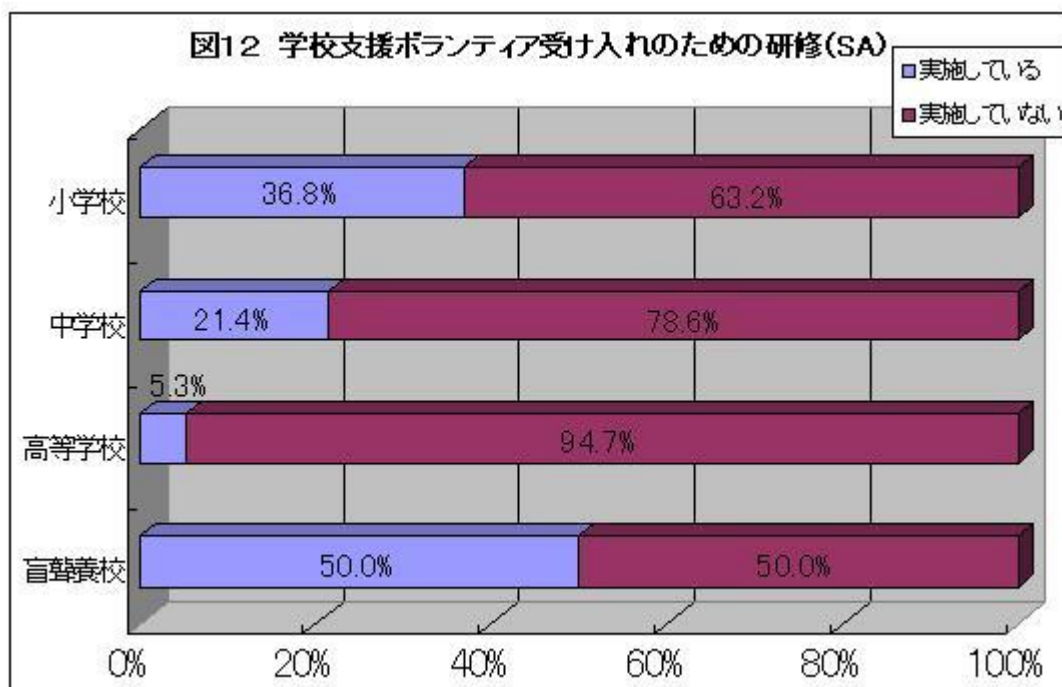
問8 学校支援ボランティア自らが、「学校で～をやりたい」というように活動内容を提案してくること

はありますか。



「学校支援ボランティアによる提案を受け入れている」は、小学校41.0%、中学校26.5%、高等学校31.6%、盲聾養護学校50.0%と回答している。また、「提案を促し積極的に対応している」は、小学校8.0%、中学校7.7%、高等学校5.3%、盲聾養護学校12.5%である。

問9 学校支援ボランティア受け入れのための研修を実施していますか。



受け入れのために何らかの研修を実施している小学校は36.8%、中学校は21.4%、高等学校は5.3%、盲聾養護学校は50.0%である。研修の場は、小学校では「教育事務所の研修会」(22.4%)、「市町村主催等の研修会」(14.6%)の順に多い。中学校では「教育事務所の研修会」「市町村主催等の研修会」それぞれ10.3%である。高等学校では「教育事務所の研修会」(5.3%)、盲聾養護学校では「学校での養成事業・研修」(50.0%)が最も多くなっている。

問 10 学校支援ボランティアに対して何らかの費用負担をしていますか。

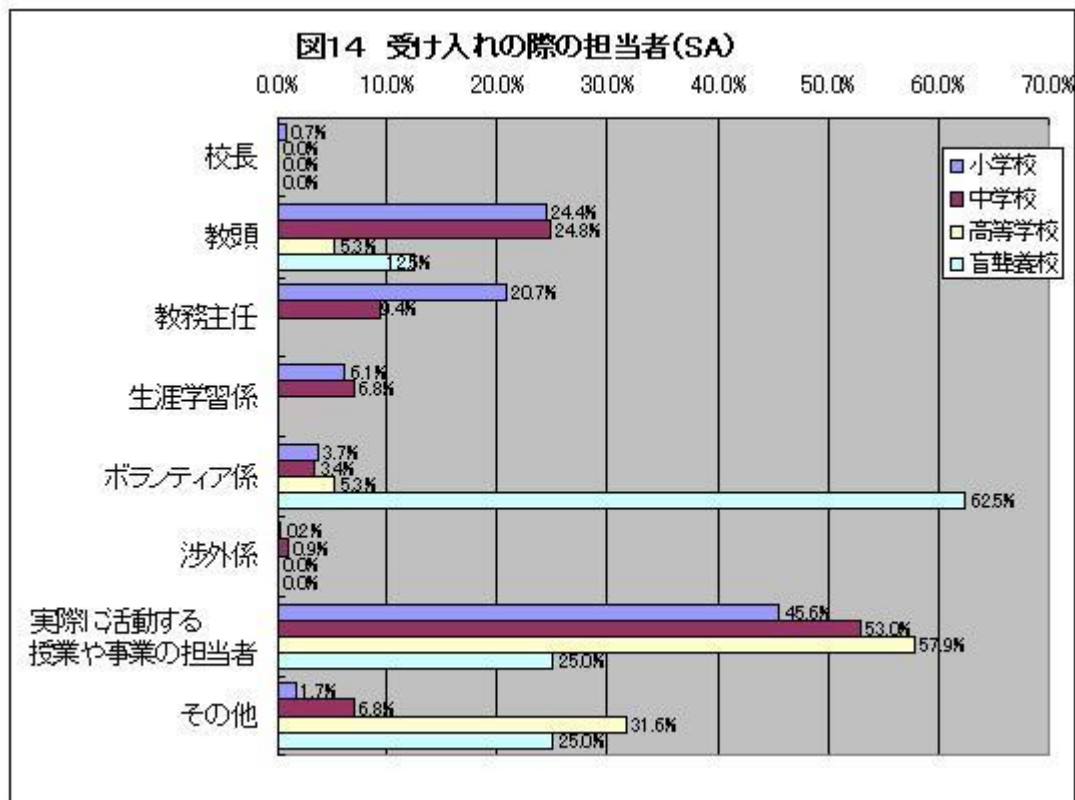
表3 費用負担（MA）

(%)

		小学校	中学校	高等学校	盲聾養護校
謝 金 [図書券含む]	学校で負担	17.1	23.9	47.4	0
	市町村教育委員会や市町村社会福祉協議会が負担	34.4	30.8	10.5	25.0
贈り物	学校で負担	20.0	13.7	5.3	25.0
	市町村教育委員会や市町村社会福祉協議会が負担	6.3	3.4	0	12.5
交通費実費	学校で負担	5.6	4.3	21.1	0
	市町村教育委員会や市町村社会福祉協議会が負担	3.4	2.6	0	0
	ボランティアが負担	26.8	27.4	31.6	50.0
食事[の提供]	学校で負担	13.4	12.0	10.5	0
	市町村教育委員会や市町村社会福祉協議会が負担	5.4	3.4	0	0
	ボランティアが負担	5.9	2.6	5.3	37.5
材料費	学校で負担	32.2	15.4	15.8	50.0
	市町村教育委員会や市町村社会福祉協議会が負担	8.8	4.3	0	12.5
	ボランティアが負担	4.6	3.4	0	0
ボランティア保険	学校で負担	9.5	5.1	5.3	12.5
	市町村教育委員会や市町村社会福祉協議会が負担	41.5	26.5	5.3	12.5
	ボランティアが負担	1.2	2.6	0	50.0

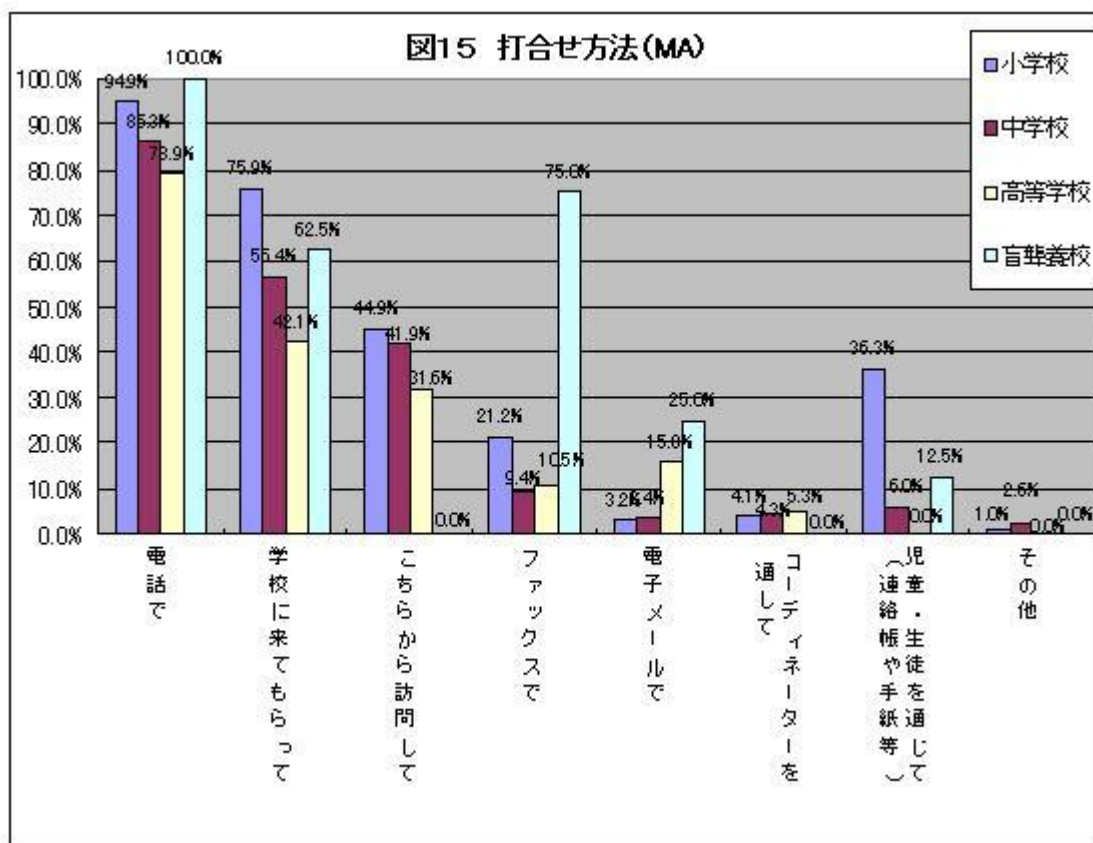
「材料費」は、学校で負担している割合が高いが、「交通費実費」は、ボランティアが負担している割合が高い。その他の費用負担については、校種において違いが見られる。

問 11 学校支援ボランティア受け入れの際の主な担当者はだれですか。



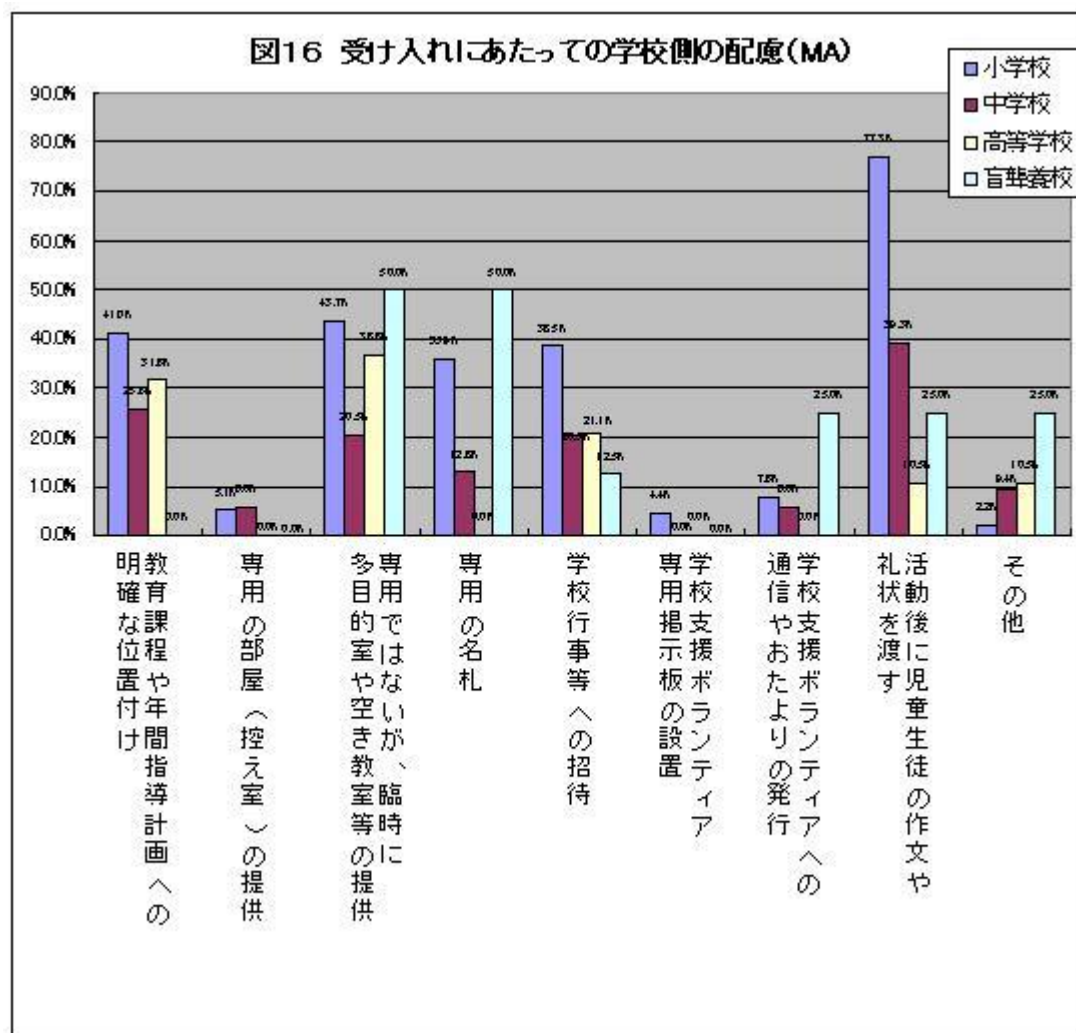
受け入れの担当者では、「実際に活動する授業や事業の担当者」が小学校45.6%、中学校53.0%、高等学校57.9%、「ボランティア係」が盲聾養護学校62.5%と最も多い。

問 12 打合せはどんな方法で行っていますか。



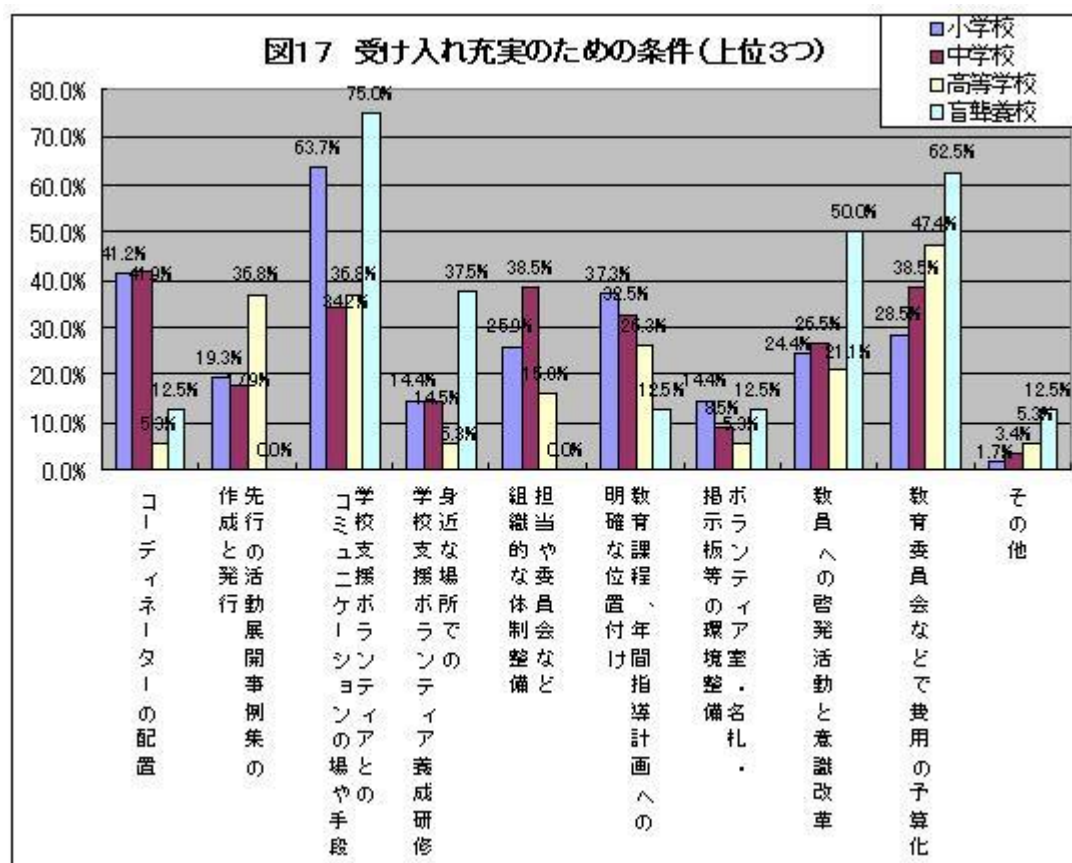
打合せの方法は、「電話で」が小学校94.9%、中学校86.3%、高等学校78.9%、盲聾養護学校100.0%と、最も多い。

問 13 学校支援ボランティアのために学校でどんな準備等をしていますか。



学校側の配慮は、「活動後に児童生徒の作文や礼状を渡す」が小学校77.3%、中学校39.3%、「専用ではないが、臨時に多目的室や空き教室等を提供」が高等学校36.8%、盲聾養護学校50.0%、「専用の名札」が盲聾養護学校50.0%と割合が一番高い。

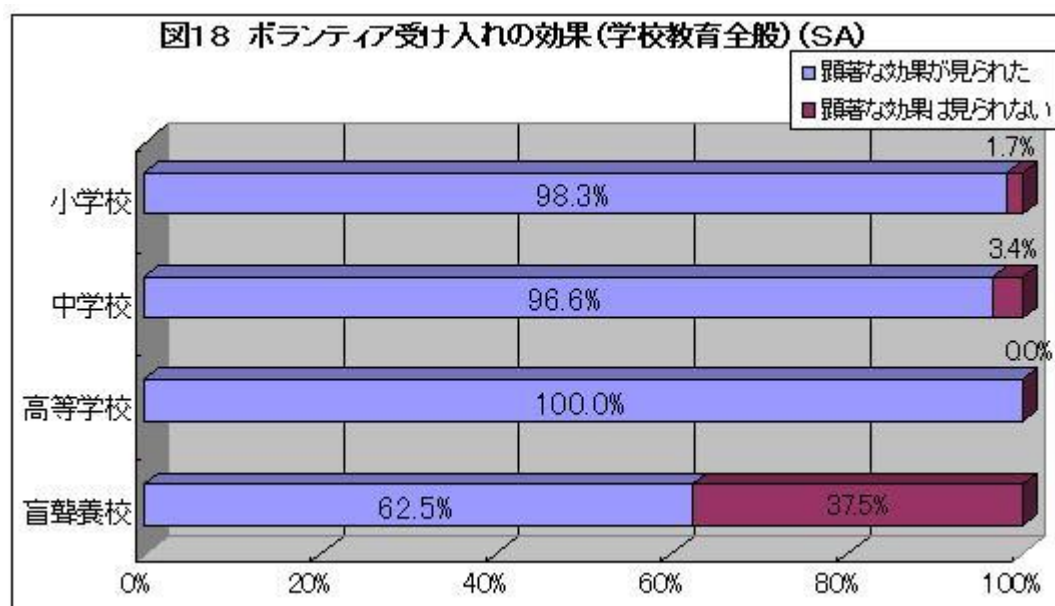
問 14 学校支援ボランティアに関して、どのような条件が整っていればより充実されると思いますか。



受け入れ充実のための条件では、小学校は「学校支援ボランティアとのコミュニケーションの場や手段」（63.7%）、中学校は「コーディネーターの配置」（41.9%）、高等学校は「教育委員会などで費用の予算化」（47.4%）、盲聾養護学校は「学校支援ボランティアとのコミュニケーションの場や手段」（75.0%）が一番多い。

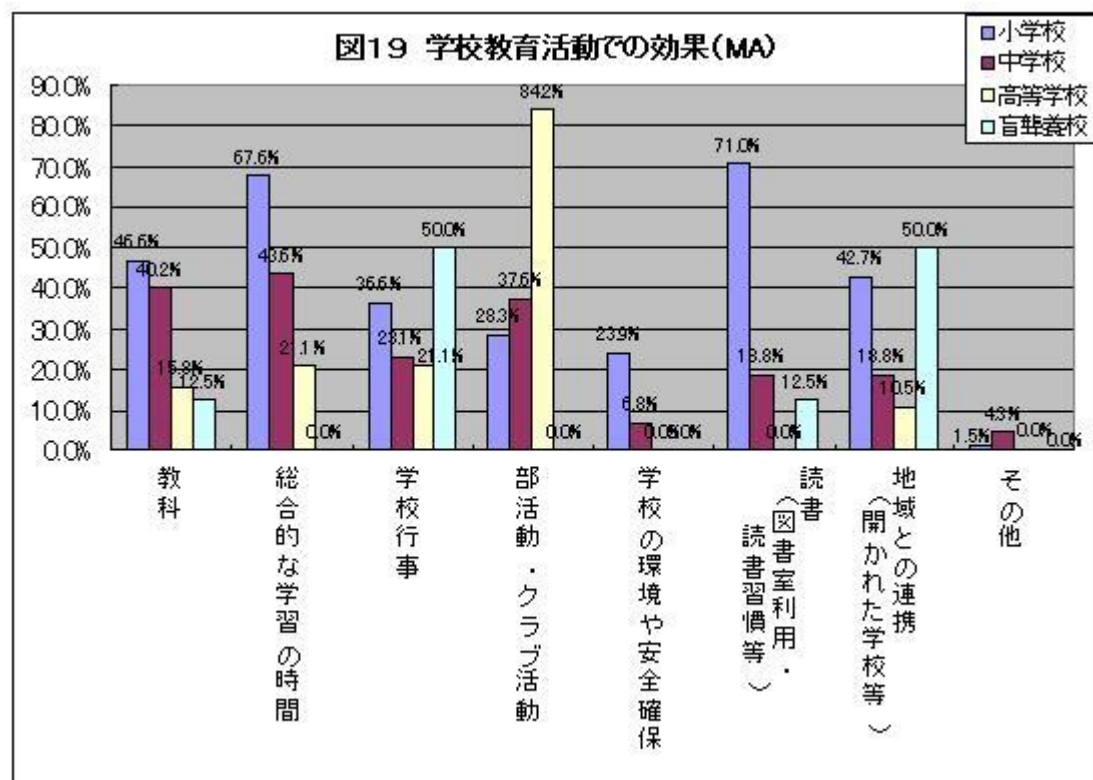
問 15 学校支援ボランティアを受け入れた効果についてお聞かせください。

○ 学校の教育活動全体



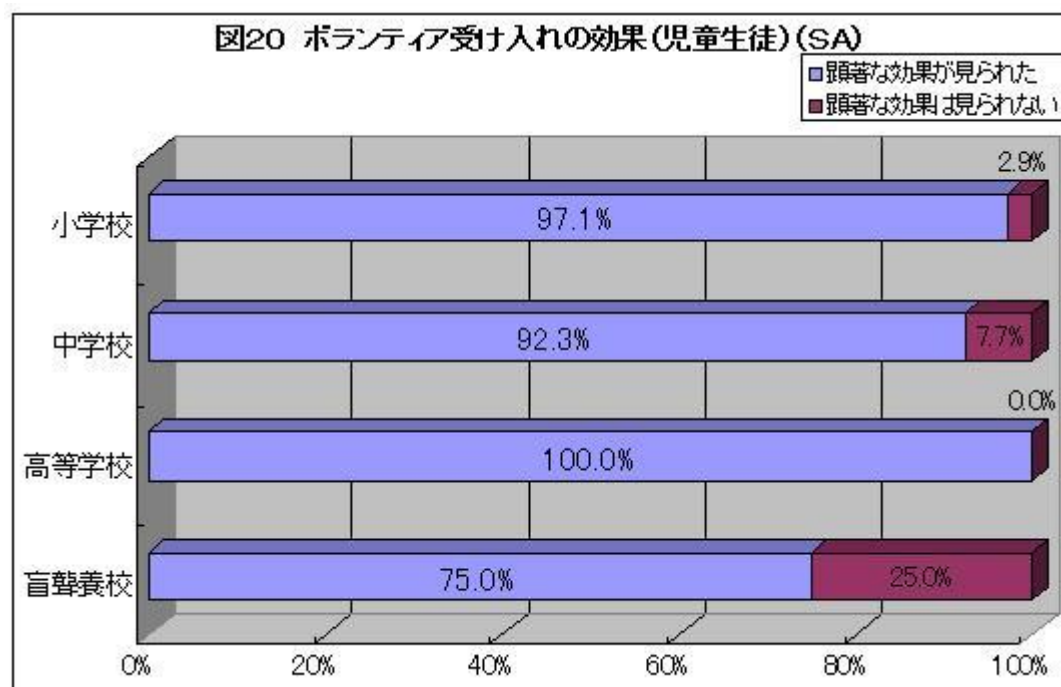
受け入れの効果（学校教育全般）として、小学校の98.3%、中学校の96.6%、高等学校の100.0%、盲聾養護学校の62.5%が顕著な効果が見られた。

0%、盲聾養護学校の62.5%で、顕著な効果が見られたと回答している。

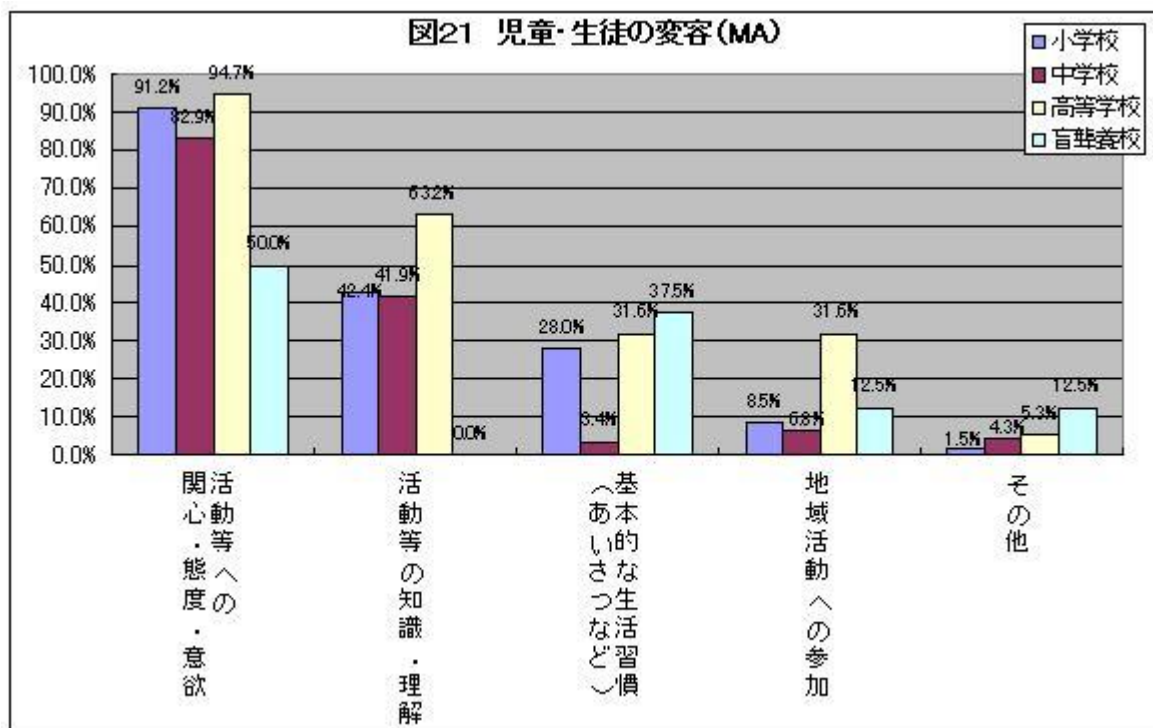


学校教育活動での効果では、小学校は「読書(図書室利用・読書週間等)」(71.0%)、中学校は「総合的な学習の時間」(43.6%)、高等学校は「部活動・クラブ活動」(84.2%)、盲聾養護学校は「学校行事」「地域との連携(開かれた学校等)」(50.0%)が最も多い。

○ 児童生徒

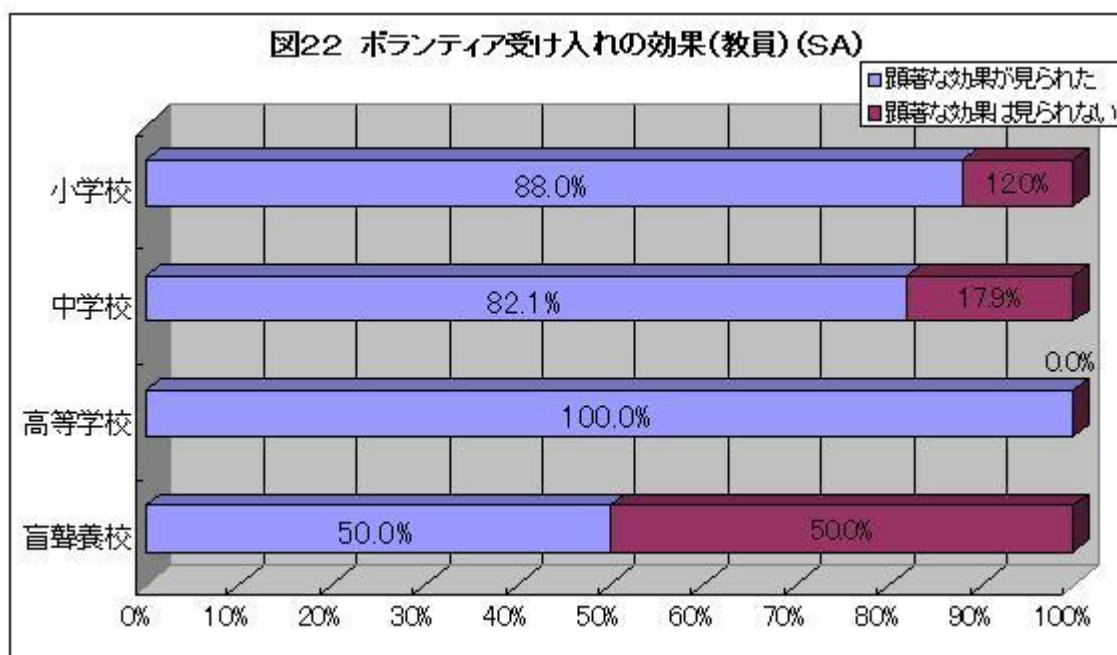


受け入れの効果(児童生徒)として、小学校の97.1%、中学校の92.3%、高等学校の100.0%、盲聾養護学校の75.0%で、顕著な効果が見られたと回答している。

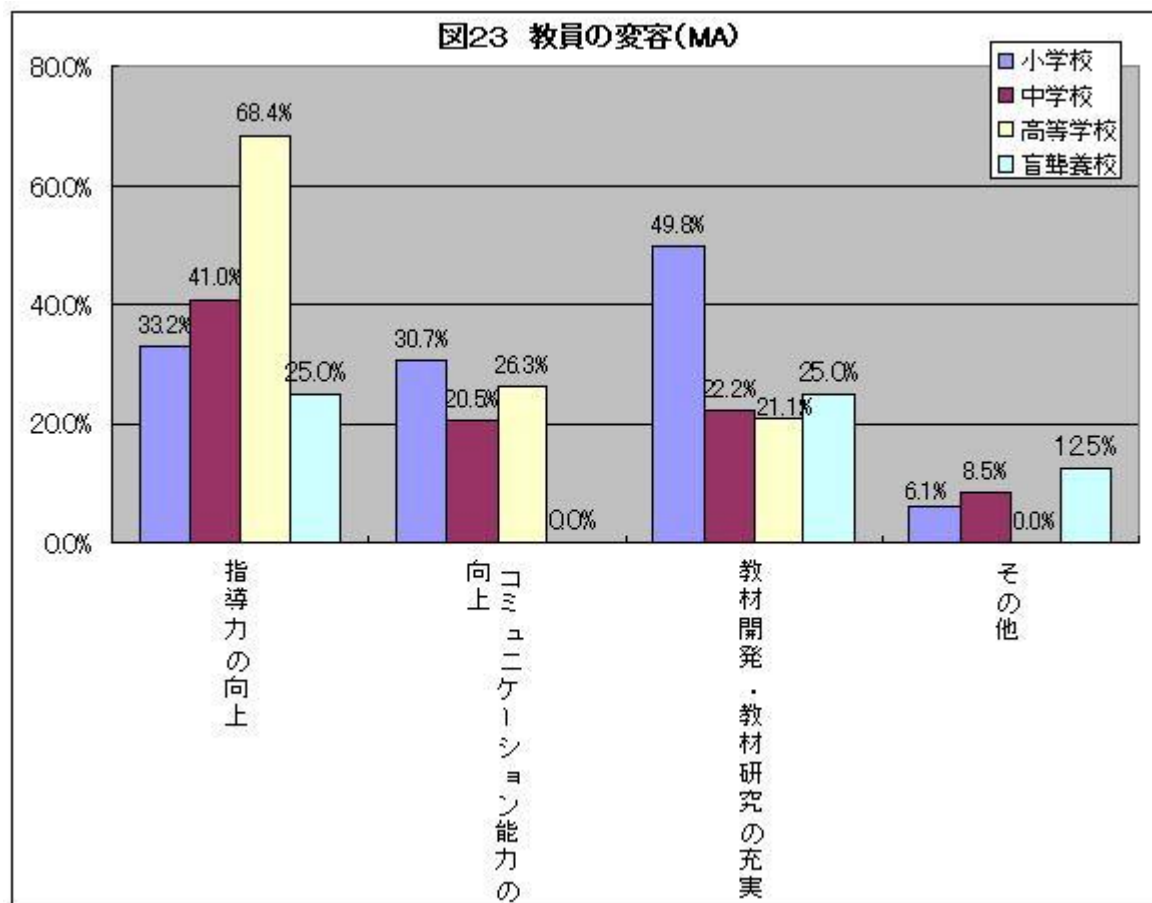


児童生徒の変容では、「活動等への関心・態度・意欲」が小学校（91.2%）、中学校（82.9%）、高等学校（94.7%）、盲聾養護学校（50.0%）と最も多い。

○ 教員



受け入れの効果（教員）として、小学校の88.0%、中学校の82.1%、高等学校の100.0%、盲聾養護学校の50.0%で、顕著な効果が見られたと回答している。



教員の変容では、小学校は「教材開発・教材研究の充実」（４９．８％）、中学校は「指導力の向上」（４１．０％）、高等学校は「指導力の向上」（６８．４％）、盲聾養護学校は「指導力の向上」「教材開発・教材研究の充実」（２５．０％）が最も多い。